学習内容報告書 フォーマット

学校名	内外海小学校
授業者	服部　緑

1.　単元計画

1-1.　単元名

内外海の未来を考える（鯖街道踏破体験）

1-2.　学年

６年生

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、国語

1-4.　単元の概要

内外海地区を活性化し、持続可能な内外海地区にするために、自分たちには何ができるのか、調べ学習や体験活動、地域の方へのインタビューなどを通して考えを深める。そして、大人になっても、様々な形でふるさとに貢献しようと思う気持ちを育てる。

鯖街道踏破体験を通して、地域の歴史にふれること、京都とのつながりを感じることから、鯖街道を活性化に生かすことを考えることにつなげる。

体験活動を中心に、活動内容や自分の考えをまとめ、学習発表会にて発表する。また、内外海地区をＰＲするためのパンフレットを作成し、観光案内所等においてもらう予定である。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

総合的な学習の時間を中心に行ってきたふるさと学習の集大成として、今自分ができることだけでなく、生涯にわたり地域に貢献したいと思えるよう、今後を見据えた活動を行う。そのためには、地域のことをよく知り、愛着をもつことが必須である。地域を身近に感じられるよう体験活動を多く取り入れる。さらに、地域を誇りに思えるよう、地元の方々にお話を聞く機会を多くとり入れ、地域の宝を見つけ、継承していこうとする態度を養う。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

・コミュニケーションを行う力
・多面的・総合的に考える力
・つながりを尊重する態度
・進んで参加する態度

1-7.　単元の展開（全３０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	学習計画 　鯖街道について調べる。	昨年のＥＳＤカレンダー 鯖街道のパンフレット
8	鯖街道踏破体験① 　内外海小学校～上根来の登山口 　鯖街道ミュージアムで調べ学習 　清右エ門でインタビュー	協力者：山の会の田中さん、 　　　　鯖街道トレイルランのランナー武田さん 　　　　鯖街道ミュージアム 　　　　清右エ衛門
8	鯖街道踏破体験② 　上根来の登山口～川合橋 　針畑ルネッサンスセンターでインタビュー	協力者：山の会の田中さん、 　　　　鯖街道トレイルランのランナー武田さん 　　　　針畑ルネッサンスセンター　今井さん
8	鯖街道踏破体験③ 　久多～花脊峠 　（花脊峠～枡形商店街はバス移動） 　枡形商店街でセレモニー	協力者：山の会の田中さん、 　　　　鯖街道トレイルランのランナー武田さん 　　　　枡形商店街　鋸屋さん
3	学習発表会（学習のまとめ） 　発表内容を考える・プレゼンテーションの準備 　発表練習 パンフレット作成 　　持続可能な内外海地区についての自分の考えをもつ。今、また、将来において、自分ができることを考え、まとめる。	インターネット 内外海や小浜の観光パンフレット

2.　学習活動の実際

2-1.　単元における位置づけ

単元　| ３０ |　時間中の　| １２～１８ |　時間目

2-2.　本時の目標

鯖街道第２弾として、約２０km の道のりを歩き、昔の人の思いを感じる。 針畑ルネッサンスセンターでへしこやなれずしのことを質問し、地域による作り方の違いを知り、内外海のなれずしへの愛着をもつ。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
内外海小学校　６：３０集合 　出発式を行う	・ボランティアの方々への連絡・調整 ・児童が安全に踏破できるよう支援する。
（バス移動） 上根来登山口　　７：２０ 　山道を歩く。 　班ごとに歩く。 　列を乱さず、歩くことができた。 　班員に気を配りながら歩く児童が増えた。	
針畑峠　　１０：００ 　看板設置 　事前に準備しておいた看板を木にくくりつけた。	
小入谷登山口　１１：３０ 　小浜市の遠敷（おにゅう）と同じ地名があることに気づいた。	
山帰来(針畑ルネッサンスセンター)　１２：００ 　昼食 　なれずしについての質問 　なれずしは内外海地区特有のものだと思っていたけれど、京都までの道のりの中になれずしを作っている地域があることを知った。作り方に違いがあることを知った。内外海地区の方が京都までの距離が長い分、保存に適した製法になっていることに気づいた。	
川合橋　１６：５０　　第２弾踏破 　バス移動　内外海小学校１８：４５到着	・鯖街道踏破体験でたくさんの気づきが見られたか。自分なりの考えをもつことができたか。（ふりかえり・感想発表）

3.　今回の活動の自己評価

　今回、針畑ルネッサンスセンターでなれずしについての質問をすることができた。なれずしは内外海地区特有のものだと思っていたけれど、京都までの道のりの中になれずしを作っている地域があることを知った。作り方に違いがあることを知った。内外海地区の方が京都までの距離が長い分、保存に適した製法になっていることに気づいていた。

　長い道のりをクラスのみんなと歩くことは、学級作りの一助にもなった。お互いに励ましの声を掛け合いながら、離れることなく、並んで歩くことができた。

4.　今後の課題

・今後もこの活動を続けていくのであれば、安全面を考えるとボランティアの人材の確保が必須であると思う。教員だけで連れて行くのは難しい。
・活動にはバス移動が必要で、修学旅行と同程度の費用がかかる。保護者の理解が必要になる。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点